

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 5 月 10 日

事業所名 放課後等デイサービスくりーむうさぎ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	75%	25%	療育内容、活動による部屋割り。(構造化)	各部屋の療育用品、備品整備→スペース確保
	2 職員の配置数は適切である	63%	38%	郊外活動等、基準以上配置、実施。	安定した配置ができるよう、役割設定、人材募集。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	25%	75%		利用状況により必要性に応じて検討、対応。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	75%	25%	毎日のMT実施。業務改善へ繋げる。	全体的な課題は職員間で周知徹底を図りながら、療育活動では状況に応じて、その都度改善するよう努めている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		職員間で協議し、状況によって改善できる案件があれば、その都度実施できるよう工夫、改善を図る。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	0%	0%	くりーむうさぎHPで公開(配布物に告知)	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	75%	25%	相談支援・児童発達支援者との連携。	状況に応じて今後検討していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	50%	50%	他事業所での取り組み見学(可能な範囲で)	リモート参加も含め参加機会確保やDVDや動画サイトをもとに自主研修への実施を検討。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	13%	0%		児童に関わる関連機関との情報共有、家庭状況も踏まえて多角的視点での分析、立案。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	88%	13%	個々の性格、行動など状況によって対応。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	職員交代制。それぞれの当日様子や意見交換をもとに情報共有、立案。	可能な範囲で児童に応じた活動内容を意識して工夫に努めている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	映画鑑賞、外出、買い物支援等の組み合わせを実施。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%		適宜状況判断しながら場面に合わせたプログラムの工夫、実施に努めている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	集団活動を中心とし、人員配置、メニューの工夫をしながら少人数での対応を適宜計画。	個別への時間はうまくとれていないが、少集団へでの活動も重視できるよう時間枠設定、工夫している。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎日のMTより役割分担、業務の流れ動きを話し合い。	怪我、事故のない安全、安心に意識しながら、職員体制、活動内容設定。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%		
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		保護者との関わりを深めながら、家庭状況の変化や成長過程の確認、また関係機関との連携をとることで情報共有、見直しができるように努めている。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	可能な限り1人ではなく2人(複数人)での参加。多角的視点、意見の必要性。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%		現時点での情報共有に加え、更に連絡調整、時間の確保を図る。より良い関係性の構築。積極的な情報提供。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%		該当児の受け入れ、現在なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	適宜関連機関との連携、見学を図り情報共有に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%		利用状況によって連携図りながら情報提供実施している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	63%	38%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		現状、交流機会設定は困難。職員人数、児童人数や双方時間設定、タイミングをみても厳しい。安定したタイミングをみて機会模索。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%		現状は参加していない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳、電話、送迎時などで様子を伝え、課題作り、解決に取り組めるよう努めています。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0%	100%	施設内での取り組み、方法を伝え、少しでも助言ができるよう心掛けています。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	適宜対応。	懇談、連絡ノート、送迎時等含め適宜対応。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	発表会やイベント活動の活用。(今後状況みて検討)	開催場所、人員確保、日程等、機会設定が現状困難。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	88%	13%		送迎、電話、メール等確認、後日状況確認した上で対応。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		随時、配布物より保護者に配布。活動内容様子などできるだけ定期的にHP公開準備検討、予定。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		運営規模、場所、人員、現場状況を考えると現状困難。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	88%	13%		対応マニュアル順次更新、作成、配布。またはHP公開での閲覧対応準備、課題。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		実施回数を増やせるよう、人員、時間の確保。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	50%	50%		人員補充、整備。該当研修機会の時間確保。リモート参加も含め参加機会確保やDVDや動画サイトを もとに自主研修への実施を検討。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%		該当児の受け入れ、現在なし。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%		保護者からヒアリング情報確認、対応。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	75%	25%		ヒヤリハットについての事例を作成。情報共有。